HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	刈り払い機による人力掻き起こしとササ地下茎の切断が天然更新に及ぼす効果（要旨）
Author(s)	坂井, 励; 吉田, 俊也
Citation	北方森林保全技術, 第36号, 14-14
Issue Date	2019-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/72966
Type	other
File Information	2017-36_1-4.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

Ⅰ－４　刈り払い機による人力掻き起こしとササ地下茎の切断が天然更新に及ぼす効果（要旨）

坂井 励，吉田 俊也

雨龍研究林

＊本報告は、2017 年度年度報告会において発表したものであるが、日本森林学会誌に投稿を予定しているため、本誌では要旨のみ報告する

天然更新を用いて低コストで森林を造成する手法として、更新の阻害要因であるササ類を重機で剥ぎ取る、掻き起こしの有効性が確かめられてきた。しかしながら、急傾斜地など重機の使用が制限される立地での天然更新技術は未だ確立されていない。そこで本研究では、まず、刈り払い機を用いてササの地上部を除去するとともに、地表のリター層（A0 層）を攪乱し天然更新を促す方法（刈り払い機掻き起こし）の実行を試みた（図-1）。さらに、施工地内のササの回復を抑制させることを目的として、施工地の周縁をルートカッターで切断し、撹乱されない深部の地下茎による施工地外とのつながりを遮断する作業（地下茎切断処理）の効果についても検証した（図-2）（図-3）。

刈り払い機掻き起こしは、高木生稚樹の発生に明らかに有効であった。また、地下茎切断処理は施工後 3 年目において、ササの成長を半分程度に抑制し、高木生稚樹の生存率も有意に高まることがわかった。作業に要するコストを試算した結果、刈り払い機掻き起こしは、通常の植栽仕様の人力地拵えに+38%、地下茎切断処理はさらに+24%のコストの上乗せで実行できた。



図-1　刈り払い機掻き起こし



図-2　地下茎切断作業

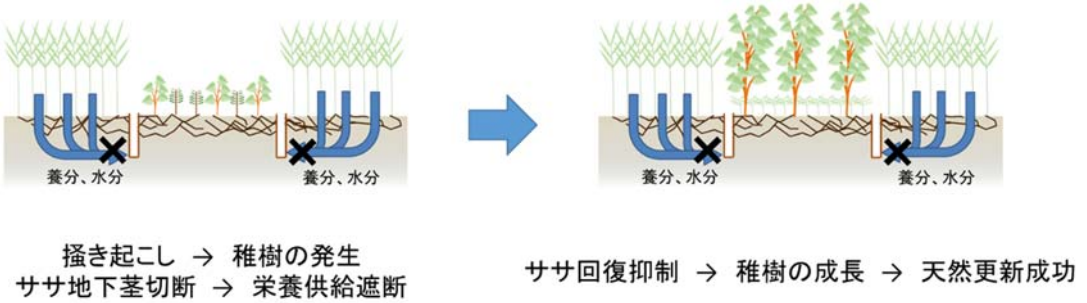


図-3　刈り払い機掻き起こしと地下茎切断の効果の概念図